

草加市立病院の産科休診1年

草加市立病院の産科が休診して1年が過ぎた。同市内で出産できる施設は、現在診療所が1院、助産院が2院。出産の場が少なくなったことで、妊婦の多くは、市外に出てお産をする「出産難民」になっている。05年3月の休診以来、再開を願う市民の要望は強く、病院も医師確保に奔走しているものの、再開のメドは立っていない。(本村尚貴)

「出産難民」いつまで

草加市の市立病院産科は、05年3月に休診を始めた。05年12月、6人いた医師1人が退職。翌年1月、別の医師1人が退職。産科は長期休診となった。1月の出産は約70件、病院は前年より約半分の約35件、安全な分娩ができた。休診を始めた。産科休診も6月まで始め、産科休診も止まった。

毎月60〜70件

市内の産科は、05年3月に休診を始めた。05年12月、6人いた医師1人が退職。翌年1月、別の医師1人が退職。産科は長期休診となった。1月の出産は約70件、病院は前年より約半分の約35件、安全な分娩ができた。休診を始めた。産科休診も6月まで始め、産科休診も止まった。

草加市の市立病院産科は、05年3月に休診を始めた。05年12月、6人いた医師1人が退職。翌年1月、別の医師1人が退職。産科は長期休診となった。1月の出産は約70件、病院は前年より約半分の約35件、安全な分娩ができた。休診を始めた。産科休診も6月まで始め、産科休診も止まった。

(2年半)
↓
再開
2007.10

医師メド立たず「家から1時間」緊急時不安

草加市立病院では、現在、医師1人が婦人科の外来を診察している。産科休診も6月まで始め、産科休診も止まった。

市内の産科は、05年3月に休診を始めた。05年12月、6人いた医師1人が退職。翌年1月、別の医師1人が退職。産科は長期休診となった。1月の出産は約70件、病院は前年より約半分の約35件、安全な分娩ができた。休診を始めた。産科休診も6月まで始め、産科休診も止まった。

草加市の市立病院産科は、05年3月に休診を始めた。05年12月、6人いた医師1人が退職。翌年1月、別の医師1人が退職。産科は長期休診となった。1月の出産は約70件、病院は前年より約半分の約35件、安全な分娩ができた。休診を始めた。産科休診も6月まで始め、産科休診も止まった。



産科の病室。休診後も、再開に備えて病室のシーツは定期的に新しいものにかえられる=草加市立病院で

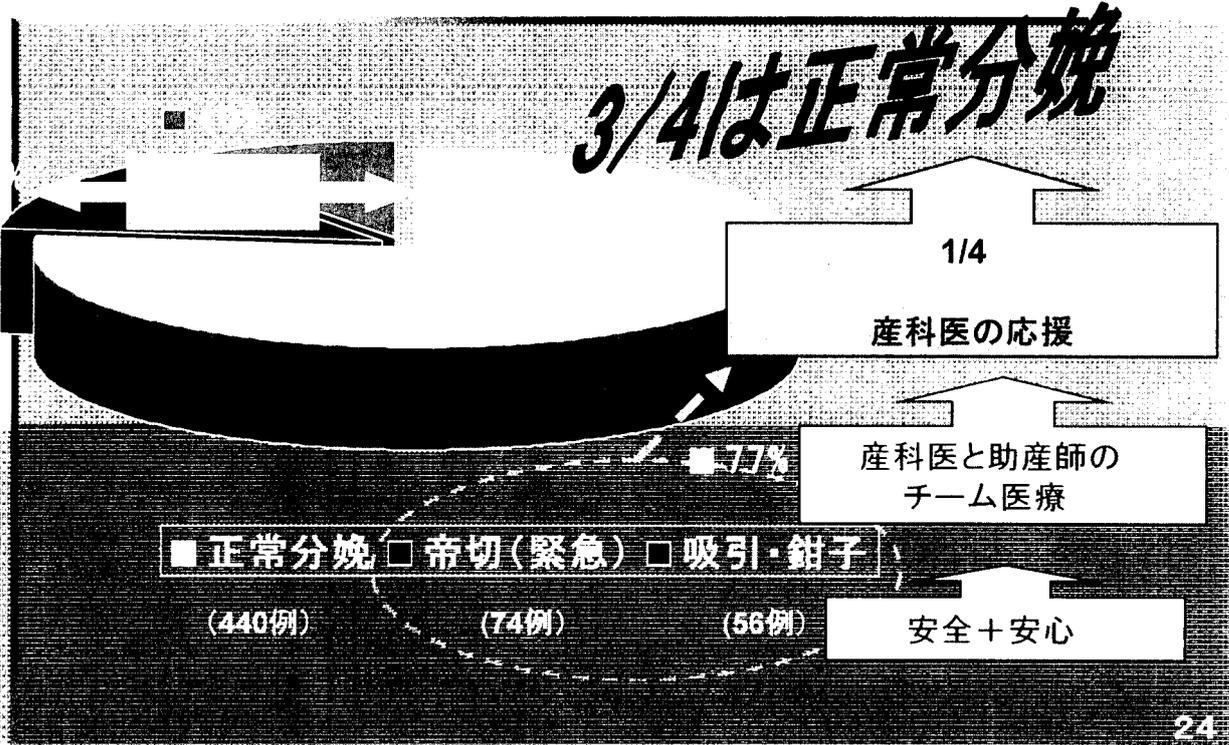
助産院で自然出産をしたいという人は増えている。でも、助産院は治療ができず、中核病院がなければ、助産院も妊婦も不安だ。(小田切房子; 埼玉県助産師会)

朝日新聞
2006.6.1

産科休診1年、産科センター(当院)は「異常分娩」ばかりなの？

→いや違います。地域の全てのお産ニーズに対応していますので

当然ですが、多くのお産は「正常分娩」です！



(地域のニーズに合わせるために)
 忙しいお産の現場で
 「産科医」と「助産師」の
 役割分担ができないものか？

Key word

産婦人科の紹介

診療実績の紹介

周産期医療の現状

1人の産科医の苦悩、**変遷**の末の到達点:

医師と助産師によるチーム医療としての

「助産師外来」の標榜・確立

6. 総括

Key word
CHANGE

26

診療スタイルの変遷 ①

(昔と今)

Key word

「産科医」主導

27

母児の安全性は他ならぬ医学と医療によって確保されてきたとの産科医の自負心

限られた医療スタッフ(産科医+助産師)での安全な分娩管理とは？

周産期医学、医療技術の進歩によって日本の妊産婦死亡率は減少した！

- 分娩誘発、促進もこれに大きく寄与した
- 自然分娩が本来の姿であることは認めた上で、医学的監視体制のもとで介助できた結果である

「安全なお産のため」

Key word

日中計画分娩
(産科学主導)

